

## 日本労働年鑑 第51集 1981年版

The Labour Year Book of Japan 1981

## 第二部 労働運動

## XII 人権擁護運動

## 3 職場の自由と民主主義を守る運動

職場の自由と民主主義を守る中央連絡会議の主催する第四回「職場の自由と民主主義を守る全国交流集会」は、一九八〇年三月八日から一〇日まで、静岡県伊東市で開催された。

この集会では「大企業における資本のファッショ的支配と民主主義の圧殺を許さない」、「企業ぐるみ選挙にたいするたたかいの前進」などを課題として、二三都道府県から一五五名が参加して、経験交流をおこなった。

まず、日本共産党常任幹部会委員、市川正一が「職場に自由と民主的権利の擁護・拡大を」と題してあいさつをおこない、ついで金子毅事務局長が基調報告「職場の自由と民主主義を守るたたかいの現段階と運動の発展方向」をおこなった。特別報告としては、「日産厚木部品のたたかい」(岩村将幸)、「大企業における組合民主主義をめざすたたかいの内容と成果」(内田勝彦)、「独占資本の思想攻撃の特徴」(山科三郎)、「労基法改悪に反対するたたかい」(上条貞夫)、「企業ぐるみ選挙とのたたかい」(菊地紘)、「ナショナルセンター問題と職場の自由」(引間博愛)の六つの課題がとりあげられた。

職場からの報告としては、日産厚木部品、東洋工業、雪印食品、本州製紙、名村造船などからの報告があいついだ。

金子事務局長の基調報告は、「直面するたたかいの重点課題」、「当面する活動の基本方向」についてつぎのようにのべている。「(1)いま私たちが直面している情勢と、私たちの運動の到達点をふまえ、次の五つの課題を重点に、たたかいの発展をはかっていきます。(1)労資一体化した抑圧・弾圧と差別の攻撃を打ち破ろう——人間の尊厳と労働者の権利の確立をめざして、たたかいの階級的国民的発展を。(2)人べらし『合理化』、低賃金と対決するたたかいと、職場の自由と民主主義の課題を結合して、運動の高揚と拡大をはかろう——労働者・労働組合の切実な要求で、右翼的潮流の支配と右寄り再編策動の粉碎を。(3)政府・独占の海外進出、防衛力増強、軍事同盟強化と職場の抑圧、国民生活破壊の関連をあきらかにし、運動の国民的な発展をはかろう——生活向上、平和と民主主義をもとめるすべての人びとの結集を。(4)企業ぐるみ選挙と特定政党支持のしめつけを打ち破り、参院選における真の革新勢力の勝利と前進をかちとろう——八〇年代における運動の発展と革新統一戦線への結集の展望を。(5)労働組合運動の階級的民主的強化、ナショナルセンターの階級的確立と未組織労働者の組織化をすすめる統一労組懇活動と固く連帯してたたかう——職場の自由と民主主義のたたかいを全労働者のものに。

(2)つぎの諸活動を基本に、いま各産業の職場、地域でたたかわれている諸闘争の連帯をつよめ、運動をさらに発展させましょう。(1)日産厚木部品をはじめ、労資一体化した右翼的潮流の狂暴な攻撃を重視し、反共右寄り再編を打ち破るたたかいと結合して、闘争の全国的発展をはかる。また、沖電気の大量指名解雇をはじめ、労働者の生活権を破壊する首切り、人べらし『合理化』と対決して、

労働者の切実な要求に基づく諸闘争の高揚をはかり、日本経済の民主的再建をめざして、「労働者の権利」を確保するたたかいを発展させる。(2)八〇年代最初の国政選挙である第一二回参院選にむけて、企業ぐるみ選挙と特定政党支持のしめつけを打ち破るたたかいを急速に発展させる。(3)日米共同作戦体制、有事立法、小選挙区制など、憲法の平和的民主的条項をふみにじる軍国主義化、日本型ファシズムに反対し、安保廃棄、民主主義擁護のたたかいを発展させるなかで、運動を平和と民主主義をもとめるすべての人のものとしていく。(4)統一労組懇活動、地域共闘・総行動を、すべての地方・地域で発展させるなかで、職場における抑圧・弾圧と差別を打ち破る諸闘争を大衆的に位置づけ、大企業と右翼的幹部の横暴を社会的に糾弾して、要求の前進をかちとる。(5)企業、職場における具体的闘争を核に、中央連絡会議の活動強化と参加拡大および地方・地域的段階における組織の強化と拡大をはかる」。

従前の全国交流集会と比べて、「職場の自由と民主主義を守る運動」と、「ナショナルセンターの階級的民主的確立」の課題との関連について言及する発言の多かったことが特徴的であった。

日本労働年鑑 第51集 1981年版

発行 1980年11月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

労働旬報社

\*\*\*\*年\*\*月\*\*日公開開始

---

■←前のページ 日本労働年鑑 1981年版(第51集)【目次】次のページ→■  
日本労働年鑑【総合案内】

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---